

6月23日オープンキャンパス 本日の模擬授業

		H・J棟		その他教室
		4階 J401教室	4階 H404教室	
11:15 ～ 12:00	総合文化学科	心理教育学科 子ども教育専修 保育コース		
	映画の新たな楽しみ方 ～ドキュメンタリー映画を見る～ 小林 茂 先生	保育における「環境」のもつ意味 粕谷 亘正 先生		
	私の短編ドキュメンタリー作品を見てドキュメンタリー映画に触れてみましょう。また、学生が作った劇映画も上映します。映画の可能性を体験してください。 『放課後』(20分)は障害のある子もない子どもにも過ごす札幌の学童保育所つばきクラブの一日を撮り上げた作品。 また、総合文化学科の唐沢友理奈監督作品『温もりの味』(8分)を上映します。学生たちがつくる作品をテレビ放送する「さがまちなパン」のドラマ部門の年間グランプリ作品です。	保育では、「環境を通して行う教育(保育)」が基本とされ、子どもたちが身近な環境に主体的に関わり、体験を重ねていくことが重視されていますが、それはなぜなのでしょう。本授業では、私たちの身近な環境との関わりを基にして、その意義について考えていきます。		
12:15 ～ 13:00	心理教育学科 心理学専修	経済学科		
	なんでネットにハマるの! ? 坂井 敬子 先生	私たちの生活にとって大切な 資源エネルギーのおはなし 岩間 剛一 先生		
	私たちの生活はインターネット抜きでは成り立たなくなってきました。「便利」を通り越し、ゲームやSNSへの依存の問題、健康や社会生活への悪影響もいわれるようになってきました。心理学の知見を活かし、インターネットに依存する心理的メカニズムと上手な付き合い方を考えましょう。	みなさんが生まれる以前の、今から40年以上前の1973年に世界を驚かせる石油ショックが起こりました。当時は、石油はあと30年しかないといわれました。今にも石油がなくなり、原油価格は高騰し、自動車を運転することができなくなり、トイレトペーパーもなくなるなど日本中が大騒ぎとなりました。特に、エネルギーの8割を石油に依存していた日本経済は、東京タワーの照明を消すなど、大きな打撃を受けました。しかし、それから40年以上が経過した今も、普通の石油で50年も存在し、シェール・オイルという新たな石油の開発によるエネルギー革命によって、今後も200年以上にわたって、石油をはじめとしたエネルギーを安心して利用することが可能となりました。原油価格も下落しています。そうした米国を震源地としたエネルギー革命の最新のお話を易しく解説します。		
13:15 ～ 14:00	経営学科	人間科学科	芸術学科 アトリエ D棟3階 D307教室	
	惹かれるのはなぜ? ～買いたくなる商品と忘れ去られる商品～ 大野 幸子 先生	イメージの交錯 ～ドイツの青年が見た近代日本の風景～ 上野 隆生 先生	デッサン講習会 佐藤 勲 先生	
	企業のマーケティング戦略や心理学的な視点から、私達の“買物”が、どのように理解されているかを解説します。日頃行っている身近な買い物(例、コンビニでチョコを買う、本屋で参考書を買うなど)を事例に、企業の広告やCMなどを見ながら、その商品に惹かれる理由を一緒に考えていきます。	19世紀末、ドイツのハンブルク出身の青年が日本を訪れ、詳細な旅行記を書き残しました。その内容を中心に、100年余り前の日本が外国の人々にどう映ったのかを考えてみましょう。当時のハンブルクと東京の景観を比較したりしながら、19世紀末の日本の風景や人々の生活、また国民性などが外国からどう見られていたのかを検討します。	「見る」という行為は、大学で専門的に学べるデザインやアート、芸術学といった美術分野全般に共通する重要なスキルです。デッサンは描くことの訓練と思われがちですが、しっかりと対象を「見る」練習にもなり、視覚芸術(美術)の基礎力を育みます。十分な時間はありませんが、「デッサン講習会」では、デッサンの基礎を体験できる時間にしたいと思います。 ※授業時間は13:15～15:00です。	
14:15 ～ 15:00	現代社会学科	心理教育学科 子ども教育専修		
	絵本で社会学しませんが ～絵本のなかの母と子～ 米田 幸弘 先生	“わかったつもり”に気付く授業とは 中田 朝夫 先生		
	私たちの何気ない経験や感覚のなかから、「社会」を考える手がかりは隠れています。この授業で、絵本から「社会」を感じてみませんか。絵本というメディアを、「社会を映す鏡」に見立ててみると、そこにどんな時代の風景がみえてくるでしょうか。「母と子の愛情」を描いた絵本を事例に読み解いてみたいと思います。	私たちの日常生活の中には、「わかったつもり」になることでうまくいっていることがたくさんあります。ただ、学校の授業の中で「わかったつもり」になって済ましてしまうことは、学ぶことの楽しさを味わう機会を逃してしまうこととなります。模擬授業では、「わかる」とは何かということから始め、理科を例に「わかったつもり」に気付くことで、「よりわかる」ための授業づくりにについて考えてみたいと思います。		